
SKYLINE
GT
R
M-spec
NISSAN



M·specというベクトル。

「大人の感性を刺激し、大人のこだわりをも満たす、そんなGT-Rが欲しい」

●"GT-Rのオーナー"になるということ:それはたぶん、ちょっとした勇気と決断が必要だと考えている方も多いだろう。GT-Rが持つ走りへのこだわりと、ストイックなイメージは、単なるスポーティカーとは一線を画すものである。しかし、速さと、ドライビングの愉しみをクルマ選びの基準としているような方にとって、GT-Rを所有することは、人生に強烈な刺激をもたらすとともに、かけがえのない歓びとなるに違いない。ましてや、GT-Rという名を聞いただけで「ワークスマシンR380のエンジンを搭載」「栄光の50勝」「デビュー即優勝」といった数々の伝説的な物語が想い浮かぶような方なら、なおさらである。私たちはそんな方々にこそ、一生に一度はGT-Rのステアリングを我が物にしていただきたいものだと思ってきた。そして、そうした想いをカタチにしたのが「GT-R M·spec」である。こだわりとロマンを捨てない"大人"に贈る、GT-Rの新しい提案がここにある。

「この走りの先にはル・マンが見える、それもまたGT-Rで見られる夢だ」

●もうひとつのGT-R、M·specのコンセプト:GT-Rが目指すものは、言うまでもなく「究極のドライビングプレジャー」に他ならない。しかし、レースの世界には、短距離で争うスプリントレースと長距離・長時間で戦う耐久レースがある。どちらも「究極」であるウイナーを目指すことに変わりはないが、そのマシンに求められるチューニングは異なるベクトルを持っている。GT-R V·specIIとGT-R M·specの違いを一言で語るなら、このスプリントレーサーと耐久レーサーの違いに例えることができる。GT-R V·specIIはラップタイムを極限まで削り取るために約4kgの軽量化にこだわり、カーボン製エンジンフードまでも採用した生粋のタイムアタッカーなのである。それに対し、GT-R M·specは24時間後の栄光を勝ち取るためのコンスタントな速さを追求するようなサスペンションのセッティングを与えている。どちらも「究極のドライビングプレジャー」を目指していることは同じだが、それに至るまでのアプローチのしかたが異なるのである。さらに、別の見方をするならGT-R V·specIIのハードスペックが、若者のようなエネルギーとストイックさを持っているのに対して、GT-R M·specはより洗練され、知恵のある大人の走り味を持つと言ってもよいだろう。さらに、そんな洗練された速さに呼応して、内装には手造りのクラフトマンシップを実感することができる本革シートや専用ステアリングホイールを採用した。限定生産50台/月としたのは、こうした手間のかかる製造方法のためである。さらに、ボディカラーも透明感のあるゴールド「シリカブレス」をGT-R M·spec専用色として加えた。これは、光の当たり方によって色が微妙に干渉するマルチフレックスカラーで、プリスターフェンダーの張り出しを鮮やかに際立たせる。このGT-R M·specのパフォーマンスはこれまでどんなクルマに乗ってきた方にも、強烈な刺激を与えずにはおかないだろう。そして、その高質な心地よさは、大人のこだわりを充分に満足させるに違いない。

Photo:GT-R M·spec、ボディカラーはシリカブレス(RPM)〈#EY0〉特別塗装色(GT-R M·spec専用色)



Photo:GT-R M·spec、ボディカラーはシリカブレス（RPM）<ニEY0>特別塗装色（GT-R M·spec専用色）

「スポーツってこれだよ、未来の走りだよ、こんな走りは初めてだ」

●フラットライドコンセプト：1989年夏、富士スピードウェイ。翌年のル・マンを目指して開発されたそのプロトタイプマシンがピットロードに滑り込み、ドアを開けたドライバーは開口一番そう叫んだ。そのマシンは、フルアクティブ（完全油圧コントロール）サスペンションを搭載していた。「最高速でも微振動ひとつしない、コーナリングでもブレーキングでもマシンが傾かない、思うがままに動いてくれて、しかも氷の上を走っているみたいに乗り心地がいい……」彼の言うように、そのマシンはとてつもなく速かった。コーナリングスピードが常識を逸脱していた。しかも、真夏だというのに、ドライバーは汗ひとつかいていない。これが「フラットライドコンセプト」である。残念ながら、このマシンはレギュレーションの変更のため、世に知られることなく姿を消した。しかし、私たちに「究極のドライビングプレジャー」を追求する、もうひとつのアプローチが存在することを確信させ、その走りを具体的にイメージさせるという大きな役割を果たしてくれた。そして、その後のル・マン、スパ、あるいは十勝など数々の24時間耐久レースを通じて、私たちはフラットライドの走りを追求し、技術を磨き上げてきた。GT-R M·specの走りは、このフラットライドコンセプトをGT-Rに持ち込むことを目指して開発された。前ページで、GT-R M·specを耐久レーサーに例えた理由も、ここにある。

「レーシングマシンで使っているショックを、GT-Rに使えないか」

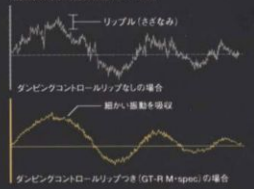
●新機構、リップルコントロールショックアブソーバー：GT-R M·specとGT-R V·specIIのメカニズム上の違いはそう大きなものではない。異なるのは、新開発のリップルコントロールショックアブソーバーを装着したことと、リヤスタビライザーをφ24.2からφ23.0へとサイズ変更した程度であるが、その走りの違いは想像以上に大きい。通常、路面からサスペンションに伝わるショックは、スプリングの縮みとダンパーの減衰力によって吸収される。しかし、路面の表面にはより細かな凹凸が限りなくあり、それがビリビリ・ザラザラとした感触としてドライバーに伝わってしまう。特にレーシングマシンの場合、細かなショックを吸収する役目を持つ溝がいっさいないスリックタイヤを履くので、この微振動がダイレクトに伝わる。そのために開発されたのがリップルコントロールショックアブソーバーである。これは特殊なゴムでできた「ダンピングコントロールリップ」を備えたもので、路面から“ささなみ”のように伝わる高周波の振動やロードノイズを効果的に遮断するとともに、タイヤの路面への追従性を向上させる。ちなみに“リップル”とは“ささなみ”の意味である。この実にシンプルなメカニズムの中に、私たちが長年培ってきた膨大なレーシングテクノロジーが凝縮されているのである。

「疲れないからドライビングに集中できる、それがレーシングドライバーの本音だ」

●GT-R M·specとGT-R V·specIIを乗り比べればその走りの違いは、それこそ手に取るように理解できる。GT-R V·specIIは、あくまでダイレクトなステアリングフィールによる速さを重視しているのに対して、GT-R M·specの方は路面からのショックを適度に“いなす”感覚でコントロールし、乗り心地がよい。それでいて路面への追従性が上がったぶん、トルクがスムーズに路面に伝達されるため、非常にコントローラブルに感じる。しかし、GT-Rの性能項目に「快適な乗り心地」などと書けば、違和感を持たれる方も多いのではないだろうか。確かに、乗り心地が向上したのと引き換えに、サーキットでの速さを失ってしまってはGT-Rとは呼べない。そのために、私たちはM·spec仕様のGT-Rも筑波サーキットに持ち込み、ステアリングを現役のトップレーシングドライバーに託して検証を行った。結果的にラップタイムはほとんど遜色がないうえ、洗練された乗り味ゆえに、マシンコントロールがしやすく、疲労感が少ないというインプレッションを得た。この印象こそ、まさに私たちが求めていたもの、そしてGT-Rが提案する新しい走りの方向性、すなわち「フラットライド」に他ならないのである。



性能試験中のリップルコントロールショックアブソーバー





ショックアブソーバーの内部に微振幅高周波振動を抑えるダンピングコントロールリップを追加。微振動を抑えるとともに、ステアリングのしっかり感も向上させる。

持久する瞬発力。



月産50台の至福。

「こんなGT-Rを待っていた
そんな人が、必ずいるに違いない」

●“M·spec”の意味：大人（Man）の感性を刺激する最高（Maximum）のドライビングプレジャー、レーシングフィールドに通じる速さ（Motorsports）、そしてもうひとつ熟練職人（Meister）気質のこだわり…これがGT-R M·specの名前の由来である。このGT-Rには、多くのクルマを乗り継ぐことで走りの微妙な“味わい”まで嗅ぎ分けるような感性を養ってきたドライバーをも刺激するパフォーマンスを備えている。それと同時に、そうした大人のこだわりに、職人気質の高質さでも応えたいと私たちは考えた。さらに、「フラットライド」というコンセプトで開発したサスペンションの乗り味にマッチしたシート/ステアリングホイールのチューニングも、GT-R M·spec開発の大きなテーマとなった。

「これほど手間のかかる造りが許されるのは、日本ではGT-Rぐらいだろう」

●手縫い本革シート（前後席）：一般的に本革シートはラグジュアリーな装備というイメージが強い。しかし、フェラーリやポルシェなどの欧州ピュアスポーツの多くが本革シートを採用しているように、スポーツと本革は決して相反するものではない。むしろ、しっかりとドライビングの機能が考慮された上質な本革シートは、走ることの歓び、満足感をいっそう増幅してくれるものである。そのために、GT-R M·specの本革シートは、メカニズムに劣らないこだわりを込めて仕立てられている。まず、革素材はハードなサーキット走行でも体が滑らないよう、上質なものを厳選した。座面とシートバックのメイン部は、通気性に配慮したパンチング素材としたうえ、ショルダー部分には肩をきちんとホールドするスウェード調のエクセーヌ※を張り込んだ。ステッチには主張しすぎない品のあるゴールド色を選択し、熟練した腕をもつ職人が一脚一脚丹念に縫い上げていく。さらに、複雑な曲線を持つGT-Rのシート形状にしっかりとフィットさせるため、ていねいに張り込んでいくという工程で完成させる。サーキット走行を繰り返しながら、クッションの厚みを1mm単位でチューニングするなど、GT-Rならではの造り込みを行っていることは言うまでもない。手間と時間を惜しまない製造工程としているため、GT-R M·specは月産50台のみの限定生産となるが、ホールド性、肌触り、耐久性など、どれを取っても“M·spec”の名に恥じないクオリティを感じていただけるに違いない。

「このステアリングは、手に
吸い付くようにフィットする」

●本革巻ステアリングホイール（ファイングリップタイプ）：スポーツドライビングにおいて微妙なコントロールを行うために最も重要なのは、指ではなく手のひらの感覚である。そのために、GT-R M·specはシート同様、本革素材に極めて上質な素材を用いるだけでなく、1.5mm厚のクッションを内部に巻き込んでフィット感を高めた。このクッションは手のひらに伝わる微細な振動をカットする効果も併せ持っている。さらに、その縫製を始めとする加工工程も手造りで丹念に仕上げている。もちろん、ステッチはシートと同色のゴールドで、パーキングブレーキレバーやコンソールリッドもカラーコーディネイトしてある。また、本革シートには季節を問わずドライビングを楽しんでいただけるように、ヒーター付シートを運転席·助手席に取り入れている。スイッチは操作性を考慮して、運転席がステアリング右側、助手席は左側に設置した。同様の考えから、ヒーター付電動格納式リモコンカラードドアミラーやワイパーデアイサー、強化ヒーターなどを組み合わせた寒冷地仕様も標準装備としている。

※エクセーヌ®は東レ株式会社の登録商標



熟練職人の手を経て一脚ずつ丹念に製作される本革シート



本革巻ステアリングホイール（ファイングリップタイプ）



手縫い本革シート（前後席）

EQUIPMENT

■スカイラインGT-R M・spec主要装備一覧

GT-R M・spec専用装備 ●標準装備 ○メーカーオプション △ディーラーオプション

		車種 GT-R M・spec
視界	UVカット断熱グリーンガラス(フロントドア)	●
	UVカットグリーンガラス(フロントガラス)	●
	プライバシーガラス(UVカット断熱機能付)(リヤサイドガラス・リヤガラス)	○
	キセノンヘッドランプ(ロービーム)	●
	リヤフォグランプ	●
	広角ドアミラー	△
	撥水ウインドウシステム (注1)	△
運転席まわり	電子制御パワーステアリング	●
シート	3本スポーク本革巻ステアリング(ファイングリップタイプ)(ホーン部GT-Rエンブレム&ゴールドステッチ付)	●
室内装備	本革巻シフトノブ&本革巻パーキングブレーキレバー(ゴールドステッチ付)	●
	オゾンセーフフルオートエアコン(デジタル表示、外気温度表示機能付)	●
	ミクロガードピュアトロン	△
	マルチファンクションディスプレイ(5.8インチワイド液晶モニター+車両状況表示機能)(表示項目は下記参照★)	●(9項目表示)
	2段表示式タコメーター	●
	アルミヘアライン調コンソール&コンビメーターフィニッシャー	●
	ステンレスパネル付キッキングプレート	●
	アルミ製アクセル、ブレーキ、クラッチペダル、フットレスト	●
	GT-R専用モノフォルムバケットシート(GT-R刺繍入り&助手席ウォークイン機構付)	●(本革)
	前席ヒーター付シート	●
	パワーウインドウ(運転席はワンタッチ、キーオフ後作動、挟み込み防止機構付、耐水タイプ)	●
	GT-R専用デザインキー	●
	リモートコントロールエントリーシステム(キー別体ホルダータイプ)(作動確認機能付)	●
	エンジンイモビライザー	●
オーディオ	CD一体AM/FM電子チューナーラジオ(80W、4スピーカー)	●
ナビゲーション	TV/ナビゲーションシステム(DVD方式)テレビ/バードビュー®+音声ガイド付ナビゲーションシステム、ビデオ端子付、FM多重放送(VICS・文字多重放送)専用オーディオ:1DINタイプMD・CD一体AM/FM電子チューナーラジオ、120W、6スピーカー、MD・CDオートチェンジャー対応機能付 (注2)	○
	VICS(ビーコン)対応キット (注3)	△
	コンパスリンク対応アダプター (注3)(注4)	△
	N'FITナビゲーションシリーズ(DVD方式他)	△
	オーディオレス (注5)	○
外装	角度調整機構付2段式リヤスポイラー(可変水平翼部はアルミ製) (注6)	●
	アドバンスドエアロシステム(フロントディフューザー&カーボン製リヤディフューザー) (注7)	●
	カーボン製インタークーラーエアガイド	△
	スーパーファインハードコート	●
メカニズム	GETRAG社製6速マニュアルトランスミッション	●
	LUK社製ダンパー付フライホイール	●
	水冷式オイルクーラー	●
	ニスモスポーツエンジンオイルクーラー(空冷式) (注8)	△
	brembo社製4輪アルミキャリパー対向ピストンブレーキ	●
	brembo社製4輪ベンチレーテッドディスクブレーキ(リヤ:N1仕様大径ブレーキ)	●
	ATTESA E-TS PRO(アクティブLSD統合制御4WD)	●
	GT-R M・spec専用チューニングサスペンション(リップルコントロールショックアブソーバー&リヤスタビライザー)	●
	ヨーレイトフィードバック電動SUPER HICAS	●
	フロントブレーキ冷却ダクト	●
	フロントブレーキ導風板	●
	アルミ製エンジンフード	●
タイヤ・ホイール	245/40ZR18タイヤ(ポテンザRE040)	●
	18×9JJ鍛造アルミロードホイール(専用GT-Rエンブレム付センターキャップ)	●
安全	運転席・助手席SRSエアバッグシステム	●
	運転席・助手席SRSサイドエアバッグシステム (注9)	○
	ABS(アンチロックブレーキシステム)	●
	前席ロードリミッター付プリテンショナーシートベルト	●
	チャイルドシート固定機構付シートベルト(後席)	●
その他	寒冷地仕様(ワイパーデアイサー、ヒーター付電動格納式リモコンカラードドアミラー、寒冷地用高性能バッテリー、寒冷地仕様クーラント、強化ヒーター)	●

その他の標準装備 ●フロント無段間けつ式ワイパー ●フロントワイパーフィン ●リヤ間けつ式ワイパー ●トアマーカー(ランプ式) ●熱線リヤウインドウ(タイマー付) ●電動格納式リモコンカラードドアミラー ●油圧計 ●液晶オド・ツイントリップメーター ●チルトステアリング ●マップランプ ●デジタル時計 ●キー連動室内照明システム ●集中ドアロック ●ヘッドランプ消し忘れ警報 ●キー抜き忘れ警報 ●グローブボックスダンパー&グローブボックスランプ ●助手席バニティミラー ●フロントカップホルダー(リッド付2個) ●ツールトレイ付スペアタイヤカバー ●クリーンフィルター(集塵機能付) ●抗菌仕様(ステアリング、シフトノブ、パーキングブレーキレバー) ●リヤガラスアンテナ ●FMダイバーシティ ●フロントスポイラー ●サイドシルプロテクター ●ステンレスデュアルテールチューブ ●4輪マルチリンクサスペンション ●フロント&リヤストラットタワーバー ●フロント&リヤスタビライザー ●ツインボールベアリングセラミックターボチャージャー ●スペアタイヤ(応急用) ●前席テンションリデューサーELR付3点式シートベルト ●後席ELR付3点式シートベルト ●運転席シートベルト非着用時警告灯 ●サイドドアビーム ●ハイマウントストップランプ(トランクリッド組込み)

●「メーカーオプション」はご注文時に申し受けます。メーカーの工場で装着するため、ご注文後はお受けできませんのでご了承ください。(注1)フロントウインドウ、フロントウインドウ+フロントドアガラス、のいずれかからお選びいただけます。(注2)MD・CDオートチェンジャー対応機能はMDまたはCDオートチェンジャーを装着しない場合には作動しません。(注3)TV/ナビゲーションシステム装着車またはN'FITナビゲーション(ディーラーオプション)装着車のみお選びいただけます。(注4)別途、携帯電話が必要となります。ただし、電話の種類によっては接続できない場合があります。また、「コンパスリンク」サービスのご利用には「コンパスリンク」への入会手続きが別途必要となります。(注5)オーディオレス車は、リヤガラスアンテナ、FMダイバーシティ、フロント&リヤスピーカーグリル、ハーネスが装備されています。(注6)ハイマウントストップランプはトランクリッド組込みとなります。(注7)フロントおよびリヤディフューザーは縁石や段差の大きさ場所では路面などと干渉する場合がありますので、ご注意ください。(注8)ディーラーオプションのニスモスポーツエンジンオイルクーラーは、V・spec Ⅱ N1仕様に標準装備されているものとは仕様が異なります。また、N1仕様のものとは同時装着できません。(注9)SRSサイドエアバッグシステムは2001年7月より生産予定です。

★マルチファンクションディスプレイ表示項目(❶スロットル開度/❷インジェクター開弁率/❸過給圧/❹エンジン油温/❺電圧/❻エンジン水温/❼フロントトルク/❽吸気温/❾排気温)

表示の緑文字は新車内快適性能「インナーグリーン」の装備です。

SPECIFICATIONS

■スカイラインGT-R M・spec主要諸元

車種	GT-R M・spec	
車名型式	ニッサンGF-BNR34	
寸法	全長×全幅×全高 mm:4600×1785×1360	
	室内寸法 長×幅×高 mm:1780×1400×1105	
	ホイールベース mm:2665	
	トレッド 前/後 mm:1480/1490	
	最低地上高 mm:130	
重量・定員	車両重量 kg:1580	
	乗車定員 名:4	
	車両総重量 kg:1800	
性能	最小回転半径 m:5.6	
	燃料消費率 10・15モード(国土交通省審査値) km/L:8.1	
諸装置	クラッチ形式:油圧操作式ダイヤフラム(プル式)	
	減速機歯車形式:ハイポイドギヤ	
	ステアリング形式:パワーアシスト付ラック&ピニオン(ヨーレイトフィードバック電動SUPER HICAS付)	
	駆動方式:ATTESA E-TS PRO(アクティブLSD統合制御4WD)	
	懸架方式 前・後:独立懸架マルチリンク式	
	主ブレーキ 前:ベンチレーテッドディスク対向4ピストン型 後:ベンチレーテッドディスク対向2ピストン型	
	駐車ブレーキ:機械式後2輪制動	
	タイヤ 前・後:245/40ZR18	

●燃料消費率は定められた試験条件のもとでの値です。実際の走行時の気象・道路・車両運転・整備などの条件により燃料消費率は異なってきます。
●本諸元のモード走行時における燃料消費率の表示はすべて「10・15モード」です。

■エンジン主要諸元

型式	RB26DETT
種類・シリンダー数	水冷直列6気筒・DOHC
シリンダー内径×行程 mm	86.0×73.7
総排気量 L	2.568
最高出力 kW(PS)/rpm	206(280)/6800
最大トルク N・m(kgm)/rpm	392(40.0)/4400
燃料供給装置	ニッサンEGI(ECCS)電子制御燃料噴射装置
使用燃料・タンク容量	無鉛プレミアムガソリン・65L

■変速比・最終減速比

トランスミッション	GETRAG社製6速マニュアル	
変速比	第1速	3.827
	第2速	2.360
	第3速	1.685
	第4速	1.312
	第5速	1.000
	第6速	0.793
	後 退	3.280
最終減速比		3.545

●このカタログのエンジン出力表示はすべて「ネット値」です。エンジン出力表示にはネット値とグロス値があります。「グロス」はエンジン単体で測定したものであり、「ネット」とはエンジンを車両に搭載した状態とほぼ同条件で測定したものです。同じエンジンで測定した場合「ネット」は「グロス」よりもガソリン自動車で約15%程度低い値(自工会調べ)となっています。
●本車両には無鉛プレミアムガソリンをご使用ください。なお、無鉛プレミアムガソリンが入手できない場合、無鉛レギュラーガソリンも使用できますが、エンジン出力低下等の現象が発生します。〈国際単位系(SI=エスアイ)による出力・トルクの表記について〉計量単位の国際標準化に伴い、従来使用していたエンジン出力単位「PS」は「kW(キロワット)」、エンジントルク単位「kgm」は「N・m(ニュートンメートル)」のSI単位とします。なお、「PS」及び「kgm」からのSI単位への換算値は次のとおりです。数値は整数単位までとし、小数点第1位を四捨五入します。1PS≒0.7355kW 1kgm≒6.80665N・m

BODY COLOR



シリカブレス(RPM)
〈≒EY0〉特別塗装色(GT-R M・spec専用色)

ブラックパール〈#GV1〉

スパークリングシルバー(M)
〈≒WV2〉

ホワイトパール(3P)〈#QX1〉
特別塗装色

内装色はすべてブラック〈G〉、(RPM)はマルチフレックスカラー、(M)はメタリック、(3P)は3コートパールの略。

お問い合わせはスカイライン取り扱い販売会社、または下記フリーダイヤルへどうぞ。

「お客様相談室」月~金 0120-315-232 (祝日を除く) 9:00~12:00 13:00~17:00

「日産インフォメーションセンター」土・日・祝 0120-838-232 9:00~12:00 13:00~16:00
土曜日曜祝日のお買い物相談は

http://www.nissan.co.jp/

●このカタログの内容は2001年5月現在のもので、仕様ならびに装備は予告なく変更することもあります。
●ボディカラーおよび、内装色は、印刷インキや撮影条件などから、実際の色と異なって見えることがあります。

日産自動車株式会社
〒104-8023 東京都中央区銀座6丁目17番1号

スピードおさえて、いい運転。
シートベルトとチャイルドシートを忘れずに。

C4251-1051AAA